

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
トルコギキョウ	北海道	お盆以降も夜温が下がらなかったため、若干前進しており、出荷量も増えている。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> <p>福島、秋田、山形、長野、北海道主体の産地構成。前年同時期と比較しても出回り量は多い状況。販売動向としては婚礼、業務関連での一定量の動きはあるが、小売り動向では鈍い動きより、厳しい価格形成となる。</p>
	青森	気温の落ち着きから順調な生育となっており、10月出荷量は前年並みとなる見込み。オオタバコガが散見されることから産地での防除・検品を徹底する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> <p>大田花き 現状でも福岡、宮崎、大分からの入荷はあるが、特に福岡からの出回りは中・下旬に向けて増加傾向。引き続き、東北方面、福島、秋田、山形主体に高冷地、暖地が併用した入荷構成となる。</p>
	秋田	9月も残暑が続いたため、生育前進となった。越冬が減って、秋出しの出荷割合が高まっているため、昨年よりはやや数量増となる見込み。	<p>FAJ プライダル需要で引き続き取引活発に。北海道、秋田などよりまとまった入荷を予定。</p> <p>東日本板橋花き 前進している為、彼岸中に数量が減ってくる。九州、西南暖地は10月より出荷予定。</p>
	山形	品質は良好であり、病害虫の被害はほとんどない。庄内産は昨年より花芽分化が1週間～10日ほど遅い。10月3週目以降に出荷量の増加が見込まれる。	<p>世田谷花き 高冷地の切り上がり早く、入荷量は暖地物の出方次第。</p> <p>第一花き</p>
	福島	気温の低下により生育は一旦落ち着いている。坂下地区では9月中旬に生産者出揃い、下旬にかけて増量となる見込み。	
アルストロメリア	北海道	稲刈りも一段落し、気温の低下とともに出荷量は徐々に増加し、横ばいとなる見込み。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> <p>上旬まで残暑の影響から各産地数量は横ばいとなった。下旬に入って、長野、愛知が増加傾向となり、業務需要中心に白、ピンクの引き合いが強く、高値での取引となった。</p>
	青森	9月は気温が高く、生育停滞となったことから、出荷は後ずれとなっており、10月出荷量は前年を上回る見込み。病害虫についてはダニが散見されるものの、目立った被害はない。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> <p>大田花き 愛知、長野中心に中旬から増加してくる。品種数も増加し、ピンク、白、黄中心の入荷となる。作付けの少ない赤、オレンジは少量となる見込み。 450,000本 @95</p>
			<p>FAJ 引き続き長野・山形中心の入荷。数量徐々に増えるも東需要中心に安定した相場。</p> <p>東日本板橋花き 愛知・青森・北海道中心の入荷。業務中心の需要。入荷量は昨年並みの入荷予定。</p> <p>世田谷花き 数量増加、相場落ち着く。</p> <p>第一花き</p>

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
ストック	山形	作柄は順調で品質は良好、病害虫の被害はほとんどない。9月の高温でやや前進している。残暑の影響で抑制ものは丈が短めである。みちのく村山農協管内では9月22日から出荷を見込んでいる。	<div data-bbox="807 277 903 322">現状</div> <p>昨年と比べてやや遅れて下旬よりスタンダード中心に北海道産がスタートする。山形については10月入ってから出荷始まる見込み。</p> <div data-bbox="807 371 903 416">見通し</div> <p>大田花き 作付け数量は昨年並みに山形中心の出荷となる。上旬はSTから中下旬は徐々にSPが増加傾向となる。</p> <p>FAJ 山形などより入荷。スタンダード中心の入荷に。</p> <p>東日本板橋花き</p> <p>世田谷花き</p> <p>第一花き</p>
	福島	9月中の日照不足により生育は若干遅れ気味。今後の天候にもよるが、出始めは10月中旬手前の見込み。	
バラ	群馬	ボリュームや出荷量は徐々に充実しているが、9月に入り曇雨天が続く日照不足の影響で生育が遅れ、芽の吹きもやや少ない。今後の天候次第で、出荷量は増減する。	<div data-bbox="807 815 903 860">現状</div> <p>9月上旬からプライダルの注文多く、白系中心に引き合いが強まる。国産品は残暑の影響で8月後半に出荷量がずれ混んでおり、中旬が入荷量の谷となる状況。</p> <div data-bbox="807 909 903 954">見通し</div> <p>大田花き 国産の入荷量の増加は上旬～中旬になる見込み。暖地は50cm～40cm中心で昨年より10cm程度短めが多くなる見込み。輸入品はエクアドル産は例年同様だが、ケニア産は減少すると思われる。</p> <p>FAJ 引き続きプライダル需要を中心に活発な取引が続く。</p> <p>東日本板橋花き 西南産地の入荷も徐々に始まってくる。婚礼需要中心の動きの見込み。</p> <p>世田谷花き 潤沢に入荷が見込める。各需要に期待。</p> <p>第一花き</p>
	山梨	生育は順調。昨年と同じ。	
	茨城	・昨年並みの出荷量となる見込み。 ・大きな問題ではないが、一部の産地でアザミウマ等の発生が見られる。	